

7 全庁における取組み

東京2020大会に向けて、新宿区の庁内各課においてもさまざまな取組みを行いました。

(1) 庁内における大会PR

各課の窓口にて東京2020エンブレムや東京2020マスコット等の卓上フラッグを設置したほか、全職員が東京2020エンブレム入りのネクストラップを着用しました。

また、各種証明書の裏面や窓口用封筒への東京2020エンブレム等の表示や、窓口での接客が多い地域振興部職員によるエンブレム付きウエア（写真右下）の着用（毎週火・金曜日）など、職員が業務の中でできることを工夫しながら大会に向けた気運醸成に取り組みました。



本庁舎フォトブースにも東京2020エンブレム等をデザインしました。



窓口用封筒



証明書類(裏面下部)



卓上フラッグ



エンブレム付きウエアを着用した職員

(2) 東京オリンピック・パラリンピック開催推進会議

東京2020大会の開催に伴う課題及び対策等を検討し、新宿区における施策を総合的に推進するため、東京オリンピック・パラリンピック開催推進会議を設置し、大会の開催に伴う課題及び対策等に係る以下の事項について、総合的な施策の検討を行いました。

- ・観光情報発信施策の推進に関する事
- ・ユニバーサルデザイン及びバリアフリーに関する事
- ・ボランティアの育成に関する事
- ・環境保全及びごみ対策等に関する事
- ・観客、会場スタッフ等の輸送に関する事
- ・スポーツの振興に関する事
- ・多言語表示に関する事
- ・安全・安心に関する事
- ・道路標識、案内板等に関する事

なお、施策の検討にあたっては、部会（文化観光産業情報発信部会、スポーツ振興事業推進部会、ユニバーサルデザイン・バリアフリー検討部会、多言語表示検討部会、ボランティア育成部会、災害等有事対応検討部会、環境保全等推進部会、競技大会輸送方針検討部会）を設置して行いました。

(3) 総合政策部における取組み

◆記録映像「東京2020オリンピック・パラリンピックに関連する区の実践」制作

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で東京2020大会コミュニティライブサイトin新宿や聖火リレーの出発式等が中止になり、大会に関わる機会が限られるなか、選手応援の取組みを通じて、子どもたちに何が残ったのか、何がレガシーとなったのか、子どもたちの思いを未来に向けて発信する記録映像を制作しました。

【取材期間】

令和3年7月～11月下旬

【取材内容】

- ① 東京2020大会応援タペストリーの制作
- ② 東京2020大会コミュニティライブサイトin新宿区のステージに出演予定だった団体の大会への応援映像
- ③ 区立小学校の児童や園児から早稲田大学滞在中の難民チームへのプレゼント
- ④ 区立小・中学校児童・生徒のパラリンピック観戦
- ⑤ オリンピック聖火リレー（点火セレモニー）
- ⑥ パラリンピック聖火リレー（採火式・集火式）



記録映像撮影の様子

(4) 総務部における取組み

◆中学生被爆体験講話

世界最大のスポーツと平和の祭典である「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」開催を契機とし、区立中学校・養護学校中学部の2年生全員を対象に、平和について考えるきっかけにしておうと、実際に被爆された方のお話を伺う「被爆体験講話」を開催しました。

生徒たちは、被爆体験の話を通じ、平和な世界の実現のためにできる身近な取組みについて考えることができました。

【日時】 令和3年7月16日(金)10時50分～12時20分

【講師】 田川博康氏（被爆体験者）

【開催方法】 講師のいる長崎市と、区内の各中学校とをオンラインで結び、生徒は各教室等で視聴。



被爆体験講話を聴く牛込第一中学校の生徒



被爆体験講話では、長崎市での被爆体験を話して下さった田川博康氏に区立中学校の生徒3名が代表して質問をしました。



被爆体験講話前に原子爆弾や長崎市の被害について事前学習しました。

(5) 地域振興部における取組み

◆スポーツの普及啓発（子ども・成人向けスポーツ体験イベント）

子どもから高齢者まで、区民誰もが年齢や障害の有無に関わらず、個々の目的やライフステージに応じて多様なスポーツに親しめる機会を創出すべく、年間を通じて子ども・成人向けスポーツ体験イベントを実施しています。

オリンピック・パラリンピアンや元プロ選手が講師となってスポーツの実技指導を行ったほか、お笑い芸人がイベントを盛り上げました。

【平成30年度実績】 10回開催、計402名参加

【令和元年度実績】 8回開催、計275名参加

【令和2年度実績】 6回開催、計230名参加



バスケットボール教室の様子。皆さん楽しみながら真剣に取り組みました。

◆フットサル交流会「新宿グローバルカップ」

さまざまな国の人たちに楽しく交流する場を提供すべく、フットサル大会や子ども向けサッカー教室、ブラインドサッカー体験等を実施しました。

日本、中国、韓国、ネパール、カナダ、セネガル、ブラジルの7か国のチームが参加し、スポーツを通じた国際交流ができました。

【日時】 令和元年5月12日(日) 10時～15時30分

【会場】 落合中央公園野球場（上落合1-2）

【参加者数】 350名



真剣勝負の試合を通じて互いに交流を深めました。

(6) 文化観光産業部における取組み

◆新宿フィールドミュージアムの充実

新宿の文化資源を活用した多様な主体による文化芸術イベントを集約し、音楽・美術・演劇・伝統芸能・パフォーマンス・まち歩き・歴史探訪など、幅広いジャンルのイベントからなる「新宿フィールドミュージアム」。

大会の開催に向けて実施プログラムの拡充や開催期間の拡大、情報発信の拡大に取り組みました（新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の一部を中止しました）。

◆新宿フリーWi-Fi

利用者が多く見込まれる駅周辺等に、新たにWi-Fiアクセスポイントを設置し、運用を開始しました。また、利用者のスマートフォンやタブレット等の端末に、新宿観光特使「ゴジラ」を表示するAR機能を構築しました。



新宿フリーWi-Fiの利用が可能であることを示す路面ステッカーを設置し、周知を行いました。

◆観光案内標識の整備促進

来街者が気軽に安心してまち歩きができるように、観光案内標識の整備（駅周辺への新規設置、既存の観光案内標識の盤面の更新等）を行いました。

(7) 福祉部における取組み

◆福祉部PT

福祉部内にパラリンピック・ムーブメントPT（部内プロジェクトチーム）を立ち上げ、地域に根差したパラスポーツの推進に向け、高齢者福祉施設等でのポッチャ体験会を企画、開催するとともに、各施設で開催されているさまざまなパラスポーツ体験会に参加しました。

また、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会と連携し、区内の道路の幅や傾斜、段差、スロープの有無などのバリアフリー状況の確認を行いました。

◆サービス介助基礎研修

障害理解の促進を図るとともに、パラリンピック関連イベントや障害者団体が主催するイベント等におけるボランティア活動への動機付けを行うことを目的として、車いす操作や視覚障害体験等障害者や高齢者への介助の基礎を学ぶことのできるサービス介助基礎研修会を開催しました。

【日時】令和元年6月27日(木)・29日(土)

各日14時～16時・19時～21時

【会場】新宿区役所本庁舎、新宿区役所第二分庁舎

【参加者数】95名



体験型のセミナーで障害のある方や高齢者とのコミュニケーションのきっかけを新たに学ぶことができました。

◆障害者スポーツ講演会

「障害者スポーツの充実と東京2020パラリンピックの成功にむけて」と題し、(公財)日本障がい者スポーツ協会（現・日本パラスポーツ協会）常務理事の高橋秀文氏（東京ガス(株)アドバイザー）が、障害者スポーツを取り巻く状況、パラリンピックの歴史・魅力・意義、心のバリアフリーへの取組みについて、映像によるパラリンピック競技の紹介を含めた講演を行いました。

【日時】令和元年11月2日(土)14時～16時

【会場】新宿文化センター（新宿6-14-1）

【参加者数】135名



障害者スポーツ講演会

(8) みどり土木部における取組み

◆バリアフリーの道づくり

大会に向け、主要駅周辺の区道のバリアフリー化整備として、歩道の段差の解消や視覚障害者誘導用ブロックの設置、カラー舗装化等を行いました。

◆環境に配慮した道づくり

大会を観戦する方々が快適に通行できるよう、新宿駅周辺や国立競技場周辺、東京2020パラリンピックのマラソンコース周辺道路について、遮熱性舗装の整備を行いました。

◆自転車通行空間の整備

大会に向け、歩行者・自転車・自動車のそれぞれが安全に、安心して通行できる道路空間を創出するため、主要駅周辺や国立競技場周辺等について、自転車通行空間の整備を行いました。

◆道路標識等の改修

大会に向け、訪日外国人旅行者などにわかりやすい案内ができるよう道路標識等にピクトグラムを活用するなどの改善を行いました。

◆新宿中央公園の魅力向上

平成29年度策定の「新宿中央公園魅力向上推進プラン」に基づき、約8,500㎡の広大な「芝生広場」や、カフェやレストランが入る交流拠点施設「SHUKNOVA」の整備を行いました。



Photo ©2020 Nacasa & Partners Inc.
飲食などが楽しめる交流拠点施設「SHUKNOVA」と開放的な「芝生広場」(新宿中央公園)

◆清潔できれいなトイレづくり

東京2020大会の開催に向けて、東京2020パラリンピックマラソンコース沿道や国立競技場、主要駅等、多くの方々が訪れる場所の周辺にあるトイレを多機能トイレや洋式トイレに優先的に改修しました。



多機能トイレの設置(富久町公衆便所)



洋式トイレの設置(市谷見附公衆便所)

(9) 環境清掃部における取組み

◆「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」への協力

このプロジェクトは、東京2020組織委員会が全国展開した公認プログラムであり、回収した使用済小型電子機器等に含まれる貴金属から入賞メダル約5,000個が製作されました。

新宿区は、平成29年2月から平成31年3月末までこのプロジェクトに協力し、新宿リサイクル活動センター等における「窓口回収」や、新宿区役所本庁舎や各特別出張所での「ボックス回収」(右写真)、区主催の大会気運醸成イベント等で回収を行う「イベント回収」等を行いました。その結果、小型電子機器を約199,460kg回収し、そのうち資源化量としては金約6kg、銀約31kg、銅約8,187.3kgとなりました。



(10) 都市計画部における取組み

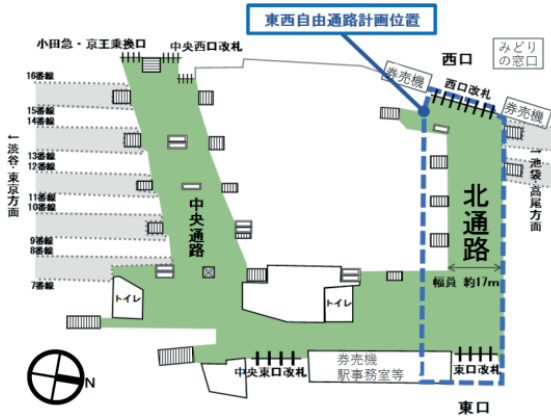
◆新宿区ユニバーサルデザインまちづくり条例の制定

新宿区では、都市施設（建築物、道路、公園等）に関し、年齢、性別、国籍、個人の能力等にかかわらず、全ての人々が安全に、安心して、かつ、快適に暮らし、又は訪れることができるまちの実現を図るための取組みとして令和2年3月に「新宿ユニバーサルデザインまちづくり条例」を制定しました。

◆新宿駅東西自由通路の整備

新宿駅東西自由通路の整備は、JR新宿駅構内の北通路を17mから25mに拡幅するとともに、改札を移設して自由通路化を行ったものです。令和2年7月19日の開通により、新宿駅周辺における歩行者の回遊性や来街者の利便性が向上しました。

整備前



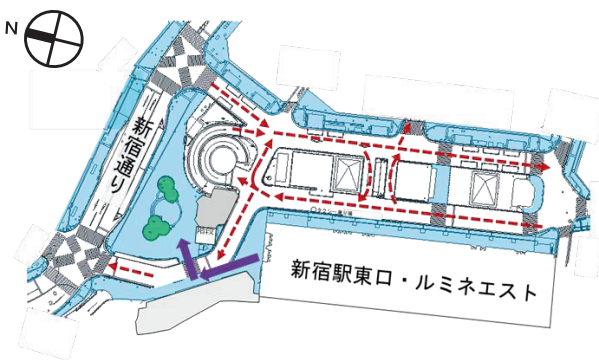
東西自由通路開通時点（令和2年7月）



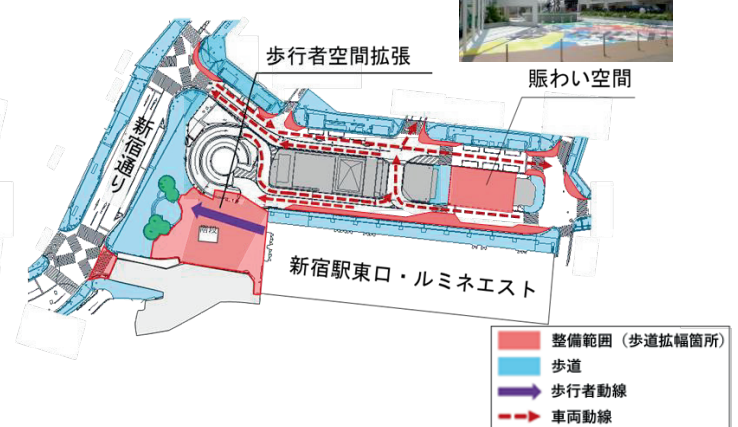
◆東口駅前広場の緊急整備

新宿駅東西自由通路の開通にあわせて、管理者である東京都及び東日本旅客鉄道株式会社が東口駅前広場の歩道拡幅等整備を行い、来街者にとって安全で快適な歩行者空間が創出されました。

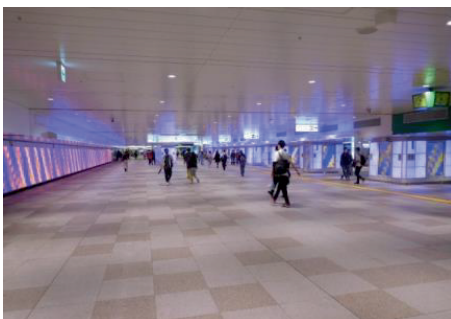
整備前



整備後



整備完了写真



《新宿駅東西自由通路》



《歩行者空間拡張後(ALTA前)の状況》

撮影協力・画像提供：東日本旅客鉄道株式会社

(11) 教育委員会事務局における取組み

◆小・中学生フォーラムin新宿西戸山中学校

例年、小・中学生と区長が意見を交換する「小・中学生フォーラム」。平成29年度は、「未来を語る～夢を語り、今を考える～」というテーマのもと、東京2020オリンピック・パラリンピックに焦点を当て、区長と生徒たちで意見交換を行いました。生徒たちは「現在」、「3年後」、「オリンピック・パラリンピック開催後」のそれぞれの姿について、国際化や経済情勢、バリアフリーなどさまざまな視点から意見を発表しました。活発な意見交換が行われ、有意義なフォーラムとなりました。



生徒たちは、多様なテーマについて区長と活発な意見交換を行いました。

【日程】平成29年6月30日(金)

【会場】新宿西戸山中学校

【参加者数】3年生 135名

◆伝統文化理解教育の推進

学校における伝統文化理解教育を充実させるとともに、児童・生徒が郷土である新宿に愛着をもち、伝統文化の継承や地域の発展に寄与したいと思う気持ちを育むため、小学校では講師を招き、日本舞踊・落語・和妻・能楽（狂言）等の伝統文化の体験教室を行い、中学校では染色業に関する講演や体験、箏・三味線等の和楽器体験を行いました。

◆スポーツギネス新宿の推進

児童・生徒が運動の楽しさに触れ、自ら運動に親しむことができるよう、子どもたちが記録向上等への挑戦を通じてスポーツへの関心と体力の向上を図る「スポーツギネス新宿」を各小・中学校で行いました。

◆創意工夫によるオリパラ教育の推進

区立学校・幼稚園・子ども園での学習内容や活動とオリンピック・パラリンピックを関連付けた取組みを展開しました。

オリンピック・パラリンピアンによる講話など、学習指導要領の目的達成を目指し、各教科等の学習内容・活動とオリンピックやパラリンピックを関連付け、4つのテーマ「①オリンピック・パラリンピックの精神、②スポーツ、③文化、④環境」と4つのアクション「学ぶ（知る）、観る、する（体験、交流）、支える」を組み合わせた取組みを展開しました。特に、「ボランティアマインド」「障害者理解」「スポーツ志向」「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」の5つの資質の育成を重点的に推進しました。

◆英語キャンプの実施

英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験し、外国人へのおもてなしや異文化・国際理解を深めるとともに、ボランティアとしての関わりを含めたさまざまな活動に取り組む基礎を養うため、子どもたちが英語だけの環境に身を置く2泊3日の宿泊体験を行いました。

また、参加者がキャンプの成果を発揮する場として、新宿区内の外国人観光客が集まるスポットで、英語でのインタビューや観光ガイドを行いました。

【日程】・英語キャンプ

令和元年8月14日(水)～16日(金) (中学生の部)

令和元年12月26日(木)～28日(土) (小学生の部)

・リフレクションセミナー(ボランティア体験)

令和元年10月6日(日) (中学生の部)

令和2年2月1日(土) (小学生の部)

【会場】・英語キャンプ

女神湖高原学園「ヴィレッジ女神湖」(長野県立科町)

・リフレクションセミナー(ボランティア体験)

四谷地域センター及び新宿御苑周辺

花園小学校及び新宿御苑周辺

【参加者数】134名



大会に向けて英語を身につけ、ボランティアとして活躍したいという参加者も多くいました。

◆東京2020おもてなしボランティア体験 in新宿

新宿区内の外国人観光客が多く集まるスポットや大会が開催される国立競技場の周辺で、外国人英語指導員のレクチャーのもと、ボランティア体験として、英語を使った観光案内や街頭インタビューなどを行いました。

また、あわせてインタビューを受けてくださった観光客に東京2020大会グッズを配るなど大会のPR活動を行いました。

【日時】令和元年10月6日(日)、11月24日(日)

【会場】四谷区民センター及び新宿御苑周辺、四谷第六小学校及び国立競技場周辺

【参加者数】57名(生徒45名 保護者12名)



「ボランティアに参加して大会をサポートしたい」と話す参加者も。

◆東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業【新宿区立図書館】

新宿区立図書館では、国立競技場の所在自治体の図書館として、利用者の東京2020大会への期待や理解を広めるとともに、図書館の利用促進を図るため、全館で関連資料の収集及び特設コーナーの設置を行いました。

また、中央図書館での「オリンピック・パラリンピックの歴史」と題した企画展示をはじめ、地域図書館においても、日中卓球交流の歴史についての講演会、ポッチャや伴走体験といった関連イベントを開催しました。



中央図書館のオリンピック・パラリンピックコーナー

(12) SDGsの推進

東京2020大会は、「Be better, together／より良い未来へ、ともに進もう。」をコンセプトとし、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」に貢献するとともに、持続可能な社会の実現に向けたさまざまな課題解決のモデルを国内外に発信しました。

- (例) ・都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト
・日本の木材活活用リレー（全国の木材を活用する選手村ビレッジプラザ）
・聖火台及び聖火リレートーチにおける水素エネルギーの活用 など

新宿区においても、SDGsの目標達成につながるよう、東京2020大会に向けた各種取組みを推進してきました。

～SDGsとは～

SDGsとは、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことで、2015年9月、ニューヨーク国連本部において、193の加盟国の全会一致で採択されました。

SDGsでは、社会が抱える問題を解決し、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すために、17分野にわたる国際目標を掲げています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 貧困をなくそう | 10 人や国の不平等をなくそう |
| 2 飢餓をゼロに | 11 住み続けられるまちづくりを |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 12 つくる責任 つかう責任 |
| 4 質の高い教育をみんなに | 13 気候変動に具体的な対策を |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 14 海の豊かさを守ろう |
| 6 安全な水とトイレを世界中に | 15 陸の豊かさも守ろう |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 16 平和と公正をすべての人に |
| 8 働きがいも経済成長も | 17 パートナーシップで目標を達成しよう |
| 9 産業と技術革新の基盤をつくろう | |

～スポーツ推進委員とオリパラ～

◆スポーツ推進委員とは？

「スポーツ基本法」に基づき、区長が委嘱しているスポーツ推進委員は、地域コミュニティの醸成に向けた区の地域スポーツ推進の役割を担い、行政と地域住民とのコーディネート役として活動しています。



スポーツ推進委員の活動の様子

◆誰もが知っている・やったことがある競技「ボッチャ」へ

区では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたスポーツ振興と大会後のスポーツレガシー継承という視点で、誰もが知っている・やってみたい・やったことがある「ボッチャ」を目指し、体験イベントの実施やボッチャセットの貸出等、身近でボッチャを楽しめる環境づくりを工夫してきました。

スポーツ推進委員は、競技の普及啓発として「レガスまつり」「スポレク」「ここ・からまつり」等の体験コーナーの実施、区立幼稚園等での「親子deボッチャ」を通し、ボッチャのルールや楽しさを知ってもらうための活動を積極的に行ってきました。

スポーツ推進委員の中には、さらに、公式C級審判員の資格を取得した人や、東京2020パラリンピック大会で、ボッチャの競技ボランティアとして参加した人もおり、委員一人一人がさまざまな形でボッチャを通じた活動の場を広げています。

スポーツ推進委員インタビュー！
～“わたし”とオリパラ～

◆桑島 恵美子（くわじま えみこ）さん

平成8年から現在まで、活動から離れた時期がありながらも、21年以上新宿区スポーツ推進委員として活動しています。介護予防運動指導士、中高年運動指導士の資格をもち、高齢者向けのスポーツ指導等、区内で活躍されています。

今回のオリンピック・パラリンピックは、テレビの中でしか観戦できませんでしたが、だからこそ各選手の発言や表情を細かく見ることができ、その努力と思いが強く伝わってきました。障害を持っていても、あの前向きな気持ちと挑戦の凄さ。私たちは、様々なことを学び、理解することができたと思います。

突然のコロナパンデミックが世界を襲い、私たちがかつて経験したことがない状況となりました。そして、生活も仕事も考え方も一変する事態となりました。そのような中、オリパラの開催に対する意見も「中止」「開催」の2極化が進み、私自身も“賛成”の発言をすることを控えるようになりました。晴れない気持ちの中での体力・筋力維持に励むことになった1年半でしたが、私にとっては大変貴重な時間をいただいたと思っています。真摯に“スポーツ”を考え・向き合い、何が大切か、今後何をすればよいのか等々いろいろ考えることができました。

このように、「スポーツ」や「オリパラ」について考えられたのは、単に私がスポーツを好きというだけでなく、長期間「スポーツ推進委員」をしてきた中で得た、スポーツの意義を感じ取っていたからだと思いました。

これからは、このスポーツの力を、オリパラのレガシーを、多様な人々と共に、地域の中で、どの様に活かすことができるか、考えたいものです。

スポーツ推進委員が、みんなで考えることができれば、ワンランクアップの存在になりえるのではと思っています。



聖火ランナーも体験した桑島さん